

●式典は、あいにくの雨でした。その雨は、式典が進むごとにドンドン強くなっていき被爆者やその家族の魂の叫びのかなと思いました。周りのたくさんの人たちが、式典が始まる前の少しの時間に鶴を折ったり、黙とうの時に目を閉じていたから周りの人の顔は見えていなかったけど、1分間の間にみんなが平和を願っているのを肌で感じ、自分の周りの小さな世界から平和にしていこうと思いました。(杉澤)

●式典には国籍、世代を問わずたくさんの方が参列していました。私は広島市長の平和宣言がとても心に響きました。核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に対して、国民一人ひとりが意識できる世の中になって欲しいと思いました。また自分自身、思いやりの心を持って行動できるようになりたいと思いました。なぜなら、小さな気配り、心配りをして温かみのある世の中になって欲しいと思うからです。(眞野)



式典会場にて



子ども代表の平和の誓い



献花する2人

川西市の平和モニュメント「陸(ドウ)」

### 非核平和都市宣言

世界中の人々が等しく平和な暮らしを営むことは、人類共通の願いです。

それにもかかわらず、地球上の全生命を滅ぼしてもなお余るほどの核兵器が蓄積され、世界の平和に深刻な脅威を与えています。

わが国は世界で最初の核被爆国として、核兵器と戦争の恐ろしさを全世界に訴え、その惨禍を絶対に繰り返させてはなりません。

私たちは祖先から受け継いできた猪名川の清流、豊かな緑、そして人類共通の財産である青く美しい地球を永遠に守り続けるためにも、核兵器をつくらず・持たず・持ち込ませずの「非核三原則」を遵守するとともに、恐るべき核兵器の廃絶を願い、人と人が憎しみあい傷つけあうことのない世界の創造を求めて、ここに市民の総意のもと、川西市を「非核平和都市」とすることを宣言します。

平成元年(1989年)7月14日 川西市

### 8月6日(火) 平和記念式典

#### 広島平和記念資料館を見学

●資料館の導入展示で被爆前後の広島市の街地映像を見ました。原子爆弾が落ちて広島は街は一瞬にして黒い煙が広がって赤い炎に包まれました。その時に街にいた人たちの気持ちを考えると、この現実を背を向けたい、目を閉じてしまいたい思いでいっぱいになりました。でも、74年前にこのようなことがあったことに向き合い、二度と同じ過ちを繰り返ささないよう行動しようと強く思いました。(杉澤)

●本館はリニューアルされていて、おとなから子どもまで関係なく一瞬で尊い命を奪われた人、命は助かったが後遺症に苦しみながら生きている人、家族・友人・先生が亡くなり一人だけ生き残った人の苦しみや悲しさが、文字や映像、写真、展示物から伝わってきて心が痛くなりました。目を逸らしたくなる写真もたくさんありましたが、二度と戦争が起こってほしくない強く思いました。(眞野)



本館内の展示見学

#### ◆折り鶴平和大使になって◆

●私は、折り鶴平和大使として広島に行き、戦争や平和についてたくさんのことを学ばせてもらい、平和について改めて考えるきっかけになりました。ヒロシマの地に立つという事は、原子爆弾によってたくさんの方が亡くたれた悲惨さを学び、後世に伝えていくことを学ばせてくれたのだと思います。今、戦争や核兵器を使うことはたくさんの方の未来や後世の人の未来をうばうことと同じです。これからは、私たちが平和の大切さや戦争のおそろしさを後世に伝えていき、世界中が平和になるようにできることをしようと強く思いました。(杉澤)



平和記念公園にて

●私は、令和になって初めての折り鶴平和大使に選ばれて、たくさんの方の貴重な経験をさせていただきました。今回の経験を通過して、現地に実際に訪れて、自分の目や心で感じるこの大切さを多くの方に知っていただきたいと思いました。広島だけでなく日本では今、自然災害の影響により仮設住宅で暮らしている人がいます。私はこれから、日本で起こったことに対して関心を持ち、今の私にできることを考えられる人になりたいと思います。(眞野)

### 8月1日(木) 市役所にて壮行式

- 市長さんから折り鶴を受け取って、市民の方々の平和への思いをむだにしないよう、広島でしっかり学んで胸を張って帰ってこられるようにしようと強く思いました。(杉澤)
- 市長さんからリンドウ色の折り鶴を受け取り、一つ一つの折り鶴に込められた市民の方々の思いが伝わってきて、改めて折り鶴平和大使としての責任を感じました。(眞野)



越田市長から折り鶴を託される2人(左:眞野さん、中央:杉澤さん)

### 8月5日(月) 広島到着

- 原爆ドームを見て、がんじょうそうな建物でさえ、ガレキなどが散らばるほどの強い威力に恐怖を感じました。それと同時に、こんなひどい原子爆弾をうけた人たちの気持ちを考えると涙が出そうになりました。(杉澤)
- 約7年ぶりに原爆ドームを見て、この場所で74年前に起こった出来事を原爆ドームは文字ではなく建物から語りかけていました。(眞野)



原爆ドーム前にて

#### 折り鶴を捧ぐ

- たくさんの方が大きな鶴や小さく細かい鶴など様々な形で折り鶴を捧ぐために並んでいて、平和になることを願っている人がこんなにいるのだとうれしくなりました。そして、市民の方々の平和への願いが届き、世界が平和になることを願って折り鶴を捧げました。(杉澤)



原爆の子の像の前で

- 日本や外国の方からの数え切れない折り鶴が奉納されていて、その色々な折り鶴を見て、広島から世界へ平和が一日でも早く届くようにと思いました。(眞野)



折り鶴をささぐ

# 2019年(令和元年) 折り鶴平和大使のヒロシマ日記

川西市では、非核平和都市宣言の趣旨にのっとり、市民平和推進事業として、「折り鶴平和大使」を広島に派遣しています。

今年度の折り鶴平和大使に選ばれたのは、市立明峰小学校6年生の杉澤優華さんと神戸海星女子学院大学1回生の眞野梨穂奈さんです。

2人の大使は、8月6日に広島市で開催された平和記念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和の願いを込めて折ったリンドウ色の折り鶴を平和公園の「原爆の子の像」に捧げてきました。



市民から寄せられた約8,000羽の折り鶴